

研修合宿

2008年度春学期、多くの新メンバーが学生スタッフに加わったため、様々なプロジェクトを立ち上げることができた。しかし、プロジェクトを進めていく上で、ボランティアとして参加する立場とではなく、現場をマネジメントする立場の違いと難しさを感じた。明学生・学内職員・外部団体など様々な人たちが関わっている中、その人々の架け橋となり、社会の活性化を目指すことが学生スタッフの役割であり、プロジェクトの mission である。そこで、各プロジェクトの課題を共有し、問題解決の方法を模索することで、秋学期に本格的にプロジェクトを展開していくために研修合宿を行った。

研修合宿は9月7日から9日まで、川崎グランドホテルで行われ、13名の学生スタッフと白金ボランティアセンターのコーディネーターが参加した。内容は、学生スタッフたちとコーディネーターが事前に何度も打ち合わせをして企画した。

研修合宿1日目は、事例を使ったクリエイティブシンキング・ロジカルシンキングを意識したグループワーク、マナー講習を行った。事例を使った「問題解決プログラム」を行うことによって、実際にプロジェクトが問題に直面したときの解決法を学んだ。また、プロジェクトを通して外部の人と接する機会が多くなったため、名刺の渡し方や挨拶の仕方などの基本的なマナー講習を行った。研修合宿2日目は、実際に学生スタッフの各プロジェクトを事例としたグループワークを行った。まずは、プロジェクトについて各担当者が紹介し、問題提起をした。そこで、皆がプロジェクトの問題を共有し、共に悩み、解決方法を考えた。そしてそれらをまとめて発表しあった。最初は議論も滞りがちだったが、学年関係なく議論を繰り返したことで次第に学生スタッフ間の距離が縮まり、議論も活発になり、各プロジェクトの問題解決方法を導き出すことにつながった。研修合宿3日目は、新スタッフ募集説明会の企画立案を行った（10月開催「求む。ふまじめ人間」Do for others サークル説明会(詳細は27ページ参照)）。これは、研修会で議論した内容を元に、各プロジェクトの魅力を発信していく実践だけではなく、2日間の研修の総まとめとしての良い機会となった。

学生スタッフには、ボランティア歴1年目の人もいれば、長年活動を続けてきた人もいる。年齢・ボランティアフィールドも違う。このような人々が3日間交わり、熱く語り合うことで、様々な“ボランティアスタイル”を知ることができた。特に初日の夜にコーディネーターが、最終日の最後に4年生の学生スタッフが語ったそれぞれの「ボランティアと自分」をテーマにした講演は、議論の活性化に一役買った。そして、最終日の振り返りで皆が口々に語った「がむしゃらである」こと、そして「謙虚である」ことの大切さ。これから、自分がどのような活動を行い、どういった道に進みたいのか。今回の研修合宿は参加者全員の成長と新たな自分の発見につながり、秋学期に向けた学生スタッフ1人1人のモチベーション向上につながった。そしてプロジェクトそれぞれの課題や解決策も明らかになり、秋学期に再スタートを切る足がかりとなった。

(心理学部心理学科2年 須賀 ゆきの)